を、いま問い直す。 半世紀にわたる「問題」

登校 50

ジェクト

をめぐって、時代ごとにどんな状況があり、

た。いったい「不登校50年」の歴史は何を語るのでしょう。不登校

親の会やフリースクールなどの市民運動が立ち現れてもきまし

方、

この5年は学校に行かない子どもたちにとって受難の歴史だった一

働き方などが、さまざまに問われてきた「問題」だったと言えます。

きました。それは、学校、教育行政、精神科医療、

家族のあり方

開始以降とも言えます。この50年、不登校は「問題」であり続けて

山田 潤さん #46

開始し、不登校経験者、親、親の会、 どう対応されてきたのでしょうか。 購読者に限定したものではなく、無料で公開します。そのため、プ カイブにしていきます。インタビュー・寄稿は、 教員、学者、弁護士など、さまざまな関係者の生の声を集め、 ジェクトは、 不登校新聞社では、「不登校50年」を機に、 寄付によって運営します。 居場所・フリー ぜひ、 証言プロジェクト このプロジェクト 社会的意義を考え スクール、

のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

2 0 1

6年7月15日

全国不登校新聞社

ながる「問題」として不登校が社会現象化してきたのは、この統計 する子どもは、学校制度とともに常にいました。しかし、 1 9 6 6 学 校 基 本 今年はそれから50年にあたります。 調 査 で 学校 嫌 <u>ا</u> 0) 統 計 が 開 学校を長期欠席 始 され 現在につ た 0)

は

プロジェクトチーム (統括:山下耕平)

関東チーム委員:奥地圭子、木村砂織、朝倉景樹、石林正男、加藤敦也、佐藤信一、 須永祐慈、関川ゆう子、野村芳美、藤田岳幸、前北海、増田良枝、松島裕之、山口幸子 関西チーム委員:山下耕平、石川良子、貴戸理恵、栗田隆子、田中佑弥、山田潤

どのように問題とされ

#46 山田潤さん 不登校 50 年証言プロジェクト

#46 山田 潤 さん



(やまだ・じゅん)

1948年、岡山県新見市生まれ。京都大学文学部を卒業後、松原専修職業訓練 校で板金工作を学び、72年から77年まで吉田板金工作所に勤める。77年、 今宮工業高校の定時制課程の英語科教員に。91年、「学校に行かない子と親の 会(大阪)」を立ち上げ、世話人代表を務める。98年の不登校新聞創刊時から 2002 年まで、全国不登校新聞社の理事を務めた。98 年から 2014 年まで関 西大学非常勤講師。訳書に『ハマータウンの野郎ども』(ポール・ウィリス/ 熊沢誠、山田潤訳/筑摩書房 1985)、『大英帝国の子どもたち 聞き取りによ る非行と抵抗の社会史』(スティーヴン・ハンフリーズ / 柘植書房新社)。

インタビュー日時:2018年7月27日

聞き手:山下耕平、貴戸理恵、栗田隆子、田中佑弥

場 所:ココナッツハウス (大阪市)

写真撮影:山下耕平

屮 た。よろしくお願いします。 ムでは山田潤さんにインタビューすることになりまし にあたり、関東チームでは奥地圭子さんに、 2年半にわたった、このプロジェクトを終える まずは、 山田さんの子ど

関西チー

も時代のことからうかがいたいと思います。

半ほどの農家の納屋のようなところで、台所も便所も 解放運動や新見市政の民主化運動などにも取り組んで ました。父方の祖父が唐松小学校の校長だったのをは 押し入れもなくて、たったひとつの家具は、割れた丸 ていたのは、毛布と鍋ぐらいです。住んだのは、 りの弟をつれて、 寝屋川市に出てきたんです。母親が私と産まれたばか は敗戦時に台湾から命からがら復員して、 いたのですが、 山田 私は、1948年、 1951年、私が3歳のときに、夜逃げ同然で大阪府 一族みな教員で、父も小学校の教員でした。父 ブルをつなぎ合わせたちゃぶ台でした。 レッドパージで唐松に住めなくなって ほんとうに無一物で出てきた。 岡山県新見市唐松で生まれ 戦後は農地 持っ 四畳

す。たぶん庭に七輪を出して、そこで煮炊きしていた 親がどうやって炊事していたのか、ようわからんので んだと思います。 ただ、当時は、 かなり貧しい暮らしで、 ほかにも似たような

屮 たとおっしゃってましたね。 お父さんが、家に貧し い家の子をつれてきて ですね。

私や弟には、

貧しい環境で暮らしている子はいっぱいいましたから、

貧乏に苦しめられたという記憶はない

につれていっていました。 古着を買ってきて、身づくろいをさせてから修学旅行 クラスの子どもをひとりつれてきて、 山田修学旅行の前には、 かならずと言ってい 風呂に行かせて、 ほど、

ことになります 山田さんの小学校時代は、

・中学生のあ

そのたび

ージのなか、どうやってもぐりこんだのか

出 いだに、

小学校入学が1954年です。

寝屋川市内で4回引っ越しをして、

父は寝屋川でも小学校の教員に職を

人が肥料にするわけですね。 しかしずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回に少しずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回に少しずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回に少しずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回に少しずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回に少しずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回に少しずつ暮らしぶりはよくなっていきました。3回

それと、子どものころはぜんぜん勉強をしたという記憶がないんです。とにかく遊びまわっていました。当時は、家の近くには信号がひとつもなかったんです。中学生のとき、全校生徒が集められて、「交通信号がつきます。これはどういうものかというと……」と、寝屋川署のおまわりさんが来て説明していたのをと、寝屋川署のおまわりさんが来て説明していたのをと、寝屋川署のおまわりさんが来て説明していたのをと、寝屋川署のおまわりさんが来て説明していたのをがあった。親にも、勉強しろと言われた覚えはなかったですね。

だんですね。
学校も、農繁期にはたくさんの子どもが休んでました。

栗田 山田さん自身が休むことは。

やったり、送辞も答辞も読むような生徒でした(笑)。山田 僕はずっと皆勤で、小・中・高と、生徒会長を

おっしゃってましたね。 当時は、学校が文化に接する唯一の場だったと

山田 ほんとうにそうでした。最初に映画を観たのも 学校だったし、レコードを聴いたのも、テープレコー 学校だったし、レコードを聴いたのも学校でのことで、 文明の利器はすべて学校にあった。図書館には本がた くさんあるし、狭い家にいるより学校にいるほうが確 くさんあるし、狭い家にいるより学校にいるほうが確 くさんあるし、狭い家にいるより学校にいるほうが確 くさんかるし、狭い家にいるより学校にいるほうが確 くさんかるし、狭い家にいるより学校にいるほうが確 くさんかるし、狭い家にいるより学校にいるほうが確

ただ、当時の教師はぜんぜんダメだったと思います。(笑)。受け持ってもらった先生のなかに、あれは立派(笑)。受け持ってもらった先生のなかに、あれは立派のようなものは感じていて、秩序としては成り立ってのようなものは感じていて、秩序としては成り立ってのようなものは感じていて、秩序としては成り立っていたんだと思います。

そんなもの知るか

まった。山田さんの実感としては、どうでしたか?と変わったとおっしゃっていました(本プロジェクと変わったとおっしゃっていました(本プロジェクと変わったとおっしゃっていました(本プロジェク

山田 あまり、変わったという実感はなかったですね、山田 あまり、変わったという実感はなかったですね。日本の文教政策の節目が重要な意味を持つことはある日本の文教政策の節目が重要な意味を持つことはある日本の文教政策の節目が重要な意味を持つことはあるには、組合の教員が好き勝手にやっている学校があったですね。

時間に堂々と開かれて、その案内を校内放送で流すん員は自由出退勤だし、組合の中央委員会なんかも授業も、大阪のかなりの高校は組合管理だったんです。教私が1977年に定時制高校の教員になったときで

がついていた。いまはありえないですね……。です。組合活動で授業を抜ける先生には補講の段取り

山下 山田さんの中学校時代は、どうでしたか?

出田 という思いもあったんだと思います。 かったものを、こいつが果たしてくれるんじゃないか えば、彼なりに苦労してやってきて、自分が果たせな 思っていたので、逆にびっくりしました。いまから思 んなガリ勉になったのか」と叱られるんじゃないかと たら、親父がものすごく喜んでね。僕のほうは、「そ すごく複雑な感じだったんです。ところが、家に帰っ 意識しました。ただ、それは喜ぶというよりも、もの た感じがあって、そのとき初めて、席次というものを ラスのなかでも「山田が1番らしいぞ」と、ざわつい が校内で実施して、私は学年で1番だったんです。 んですが、1年生の2学期に業者の模擬テストを学校 じはありました。当時は偏差値なんてものはなかった 中学校からは、だんだん高校入試を意識する感 ク

貴戸 小・中学校時代の勉強は、山田さんにとって知

非常に貧乏な家にもかかわらず、家にはレーニン全集プロンで、親父が組合の活動家で共産党員でもあったので、近田 小学校のときは、とにかく遊んでいましたね。 いが かいがったんでしょうか?

活動家として、一生懸命「学習」していたんでしょうね。がそろっていたりしました(笑)。親父は労働組合のただ、親父が組合の活動家で共産党員でもあったので、

貴戸 それを読んでいたんですか?

山下いわゆる文化資本はあったわけですね。

るのはショックでした。 て家庭訪問に行って、本らしい本が1冊もない家があて家庭訪問に行って、本らしい本が1冊もない家があ

来田 中学校の同級生で、中卒で仕事に就く子もいた

山下 就職する子たちの家庭状況は、どんな感じだっ

零細な農家が多かったと思います。 稼ぐような感じでしたね。農地解放があったとはいえ、稼ぐような感じでしたね。農地解放があったとはいえ、

階層差を感じることはあったんでしょうか。 覚えがないとおっしゃっていましたが、そのあたりですえがないとおっしゃ。 ほかも貧しかったから苦しかった

だけで便所が使えることが、とてもうれしかった覚えているところから便所に直接行ける、自分たちの家族小学4年のとき、初めて家に便所ができて、寝起きし山田 あまりなかったですね。うちもたいがい貧乏で、山田

があります。

校に進学していたんですね。トップの成績をとっていた子たちも、地元の寝屋川高トップの成績をとっていた子たちも、地元の寝屋川高くれと、当時は高校のランクなんて意識はなくて、

はどうしてだったんでしょう。
山下 しかし、山田さん自身は、地元の寝屋川高校で

思ったんです(笑)。 ひとりになりたかったんです。誰も自分のことを知らひとりになりたかったんです。誰も自分のことを知ら山田 それは大学進学に有利だからとかではなくて、

いうことはあったんでしょうか。
貴戸 当時、学校恐怖症だとか、不登校の子がいると

める」という動詞は使いましたが、名詞形の「いじめ」います。「いじめ」なんて言葉も使わなかった。「いじんでしたね。ほとんど、そういう意識はなかったと思山田 あったかもしれないけれども、直接は知りませ

を覚えました。
じめ」という名詞を聞いたときは、非常に奇異な感じはなかったと思います。ですから、8年代に入って「い

ただ、高校のときに、担任の先生から相談を受けたことはありました。農家の子で、勉強に自信がないと言い出して、精神的にピンチになっていたんですね。その子が「俺はネズミを獲るネコほどの価値もない」と言ってたのは覚えてます。

もあったのではないでしょうか。 山下 高校時代は60年代半ばですね。時代状況の影響

てはいけないという不文律があったんです。「3校禁」のが、ちょうど高校生のときでした。それには教職員のが、ちょうど高校生のときでした。それには教職員組合も反発していたし、生徒のあいだでも、「勝手に期待される人間像をつくるな」と、10校前後の高校の財待される人間像をつくるな」と、10校前後の高校の市と続き、文化系クラブの生徒が3校以上で集まったりとでよってはいけないという不文律があったんです。「3校禁」

ます。 と呼ばれていて、体育系は集まってもよいが、文化系と呼ばれていて、体育系は集まってもよいが、文化系に、敗戦直後期の学校は民主的だったのに、その後に、敗戦直後期の学校は民主的だったのに、その後だんだん反動化して管理教育色を強めたというのも、だんだん反動化して管理教育色を強めたというのも、だんだん反動化して管理教育色を強めたというのも、たし、そういう意味では、いまのほうがマシだと思いたし、そういう意味では、いまのほうがマシだと思いたし、そういう意味では、いまのほうがマシだと思いたし、そういう意味では、いまのほうがマシだと思いたし、そういう意味では、いまのほうがマシだと思いたし、そういう意味では、いまのほうがマシだと思います。

全共闘運動のなかで

山下 大学時代の話をうかがいたいと思いますが、山 山下 大学時代の話をうかがいたいと思いますが、山

クでした。そのときに自分は何をしていたかと。そのて、京大生の山崎博昭くんが亡くなって、これはショッて、京大生の山崎博昭くんが亡くなって、これはショッムです。ところが、67年10月に第1次羽田事件があった。 ところが、67年10月に第1次羽田事件があった。 ところが、67年10月に第1次羽田事件があった。

年をとった感じで、親不孝をしたなと思いました。 だったんだと思います。それで、家を出たんですが、 言われてね。息子への期待があっただけにショック そんなヤツといっしょに暮らせないから出て行け」と ら、翌日に機動隊が突入して、安田講堂は陥落した。 うつきあわんわ」と思って、帰ったんです。そうした していて、学生どうしで衝突していた。それで、「よ とこれ以上つきあうのはイヤやと思った。だって、 たまに用事があって実家に帰ると、親父がいっぺんに えは、わしの仲間を叩くために東京に行ってたんか。 青(日本民主青年同盟/共産党系の学生組織)も武装 してるんです。「こいつら本気か?」と思ってね。民 らは鉄パイプの先をとがらして、突撃の練習をしたり 堂の地下に泊まっていたんです。しかし、東京の連中 クトに属して、バリケード闘争なんかをしていました。 家に帰ったら、親父が「どこに行ってたんや。おま 69年冬の安田講堂攻防戦のときには、陥落前日に講

山下 京大では、68~69年ごろの状況はどんな感じ

は、デモ指揮をする私の姿も出てきます。 は、デモ指揮をする私の姿も出てきます。 を田講堂のあと、民青(と大学当局)が先に は、デモ指揮をする私の姿も出てきます。 というドキュメンタリー映画があるんですが、そこにというドキュメンタリー映画があるんですが、そこにというドキュメンタリー映画があるんですが、そこにというドキュメンタリー映画があるんですが、そこにというドキュメンタリー映画があるんですが、そこにというドキュメンタリー映画があるんですが、そこには、デモ指揮をする私の姿も出てきます。

でしょうか。
さん自身は、そういう暴力に直面したことはあったんさん自身は、そういう暴力に直面したことはあったんが少し出ましたが(本プロジェクト#35参照)、山田山下 高岡健さんのインタビューのとき、内ゲバの話

ると止めてました。民青と何回かゲバ棒(角材)でや切迫した必要もないのに石を投げようとするヤツがいりで、僕としては本気ではなかったんです。だから、りで、僕としては本気ではなかったんです。だから、がました。ただ、それは万一のときの威嚇に使うつもいました。かだ、それは万一のときの威嚇に使うつもいました。というでは、バリ山田(僕は文学部新館の防衛に当たっていて、バリ山田)(

鳴が聞こえてきて……。

『が聞こえてきて……。

『が聞こえてきて……。

『が聞こえてきる、途中で制止しようとして、味方にどりあったときも、途中で制止しようとして、味方にど

ことが起こってましたからね……。
に、誰かが殴られて、場合によっては殺されるようなに、誰かが殴られて、場合によっては殺されるようなに、非のが殴られて、場合によっては殺されるようなに、難争で失明したり、その後、精神的に失調をきたし

があるんでしょうか。 先行になって、暴力にいたってしまったことへの反省発があるように思いますが、それは全共闘運動が理念

す。でも、なかには本気のヤツもおったんやね……。らは、半分遊びで悪ノリしていたところがあったんでらは、半分遊びで悪ノリしてなかったですけどね。僕

味合いで「自己否定」という言葉が使われていたと思田中 当時、エリートになる自分を否定するという意

後、3回生のころからは、「京大フロント」というセ

いますが、山田さんはどう受けとめていましたか。

山田 僕は、プチブル(小市民)の自己否定みたいな

田中 大学に見切りをつけた、ということでもなかっ

山田 いやいや、とにかく卒業だけはしようと思って、中部を書き始めて、大学院への願書も出していたんです。しかし、自分の書いているものに何の手応えもなかったですし、一方では、封鎖解除されたあとの荒れたのかという思いもありました。みんな疲れていたと思いますね。それで、これはいっぺん大学を出ないと思いますね。それで、これはいっぺん大学を出ないと思いますね。それで、これはいっぺん大学を出ないと思ったんです。

職業訓練校へ

山田 下宿は「哲学の道」のすぐ脇だったんですが

をしていたんです。作業員が倒した電柱に腰をかけて、 をしていたんです。作業員が倒した電柱に腰をかけて、 工具ベルトを腰につるして、ものすごく楽しそうに 仕事をしている。それで、電気工事もおもしろいので はないかと思って、卒論を書き終えてから、枚方市の はないかと思って、卒論を書き終えてから、枚方市の でまたんですが、板金工科のほうがおもしろそうと思って、 たんですが、板金工科のほうがおもしろそうと思って、 たんですが、板金工科のほうがおもしろそうと思って、 たんですが、板金工科のほうがおもしろそうと思って、

大阪の職業訓練校は、もともとは北九州の炭鉱離職大阪の職業訓練校は、もともとは北九州の炭鉱離職入った板金工科も、20名のうち15名はその春に中学校入った板金工科も、20名のうち15名はその春に中学校入った板金工科も、20名のうち15名はその春に中学校を卒業した人たちでした。

ことも、まったく知らなかったですからね。せ活費も必要なので、職業訓練校に通いながら、住生活費も必要なので、際生気分を抜くにはよかったですね。それまで、新聞がどうやって届けられるかなんてね。それまで、新聞がどうやって届けられるかなんてね。それまで、新聞がどうやって届けられるかなんてね。それまで、新聞がどうやって届けられるかながら、住生活費も必要なので、職業訓練校に通いながら、住生活費も必要なので、職業訓練校に通いながら、住

(1909-1943/フランスの哲学者) のように。はなかったんですか。たとえばシモーヌ・ヴェイユ栗田 理念的に、工場労働をしようと思ったわけで

で見かける工業製品が、誰のどんな労働によってつくで見かける工業製品が、誰のどんな労働によってつく動かしてみるまで、鉄板というものがどのように固く動かしてみるまで、鉄板というものがどのように固く動かしてみるまで、鉄板というものがどのように固く動かしてみるまで、鉄板というものがどのように固く動かしてみるまで、鉄板というものがどのように固く動かしてみるまで、鉄板というものがどのように固く

ら、いろんな仕事の跡があるんです。りしたものとしてしか見ていなかったけど、よく見たて、ぜんぜん見方が変わりました。それまではのっぺられたものか、気になるし、気づく。とくに電車なん

板金工作所へ

山下 職業訓練所のあと、板金工になられたんですよ

山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま山田 72年から吉田板金工作所で働き始めて、77年ま

なっていて、バンパーがついている車はないんですしかし、いまの車体は一体成形のモノコックに

れまでの手作業の旋盤から、 いていました。 ムによって制御される旋盤に変わっていくようすを描 975)を書いた小関智弘さんは、旋盤工の世界で の世代だったと思います。『粋な旋盤工』(風媒社 いまから思えば、僕らは手づくりを経験できる最 (Numerical Control / 数値制御)が進み、 コンピュータのプログラ

数値制御ができるとは思ってなかった。数値制御が、 いくとは思ってませんでした。板金工作なんてものが いろんな分野で威力を発揮し始めたのは80年代に入っ しかし当時は、こんなに急速に労働現場が変わって

屮 あったんじゃないでしょうか。 に負い目のようなものはなかったですか? んですよね。そのあたりで周囲とのギャップなどは その町工場には、ほかに大卒の人はいなかった あるいは、 自分のなか

出 作業でもありましたら、みんなに追いつくのに精一杯 でした。後に、「大卒のおまえが職業訓練校に入学す みんな腕利きの技能工で、試作の板金は知的な

> 言われて、 ることで、 返す言葉がなかったことはあります。 定員から落ちる中卒の子もいたんやで」と

なかったですか 知識面でのギャップなどを感じることは

いと思います。 師でも少しまとまった文章をまともに書ける人は少な しかし、多くの教師の読み書き能力も低いですよ。教 んなにそういう力が分け与えられたらいいと思います。 れは学歴とは関係なく必要なことで、ほんとうは、み 状況を思い浮かべたりポイントをつかんだりする。 あやつって好きなことを言える人と、それができない 書の文章も悪い。ただ、それにしても、 む訓練を積んでないということだけではなくて、教科 し、みんな読めないんやな。読めないのは、彼らが読 午後から実習だったんです。 す。職業訓練校では、最初の2カ月は、午前中は座学で、 出 人との格差は、つくづく感じましたね。活字を読んで、 本を読む力というのはつくづく大きいと思いま 教科書で勉強する。 言葉を自由に

その一方では、 訓練校でも定時制高校でも話の上手

金工作所時代の山田潤さん。資格認定の実技試験に備え

て、工場で練習しているところ(バケツの底面部を打ち広げて いる)。

でしょうか

おもしろおかしく語る子がいて、

それは聞いていてほ

んまにおもしろかったです。

な子はいました。いたずらだとか武勇伝みたいな話を、

べきや。 代の友人から声がかかったんです。その人は定時制高 と言うてくれたんですね。 きたことを活かそうと思ったら定時制高校に来いよ」 校に勤めていて、「おまえは絶対に定時制高校に来る ではないかと思う部分もありました。そこに、京大時 とこの仕事をしていたら、世の中から取り残されるの 山田 ずっと勤めることはなかったと思います。ずっ 板金工もいいかもしらんけど、 自分のやって

屮

そのまま板金工を続けようとは思わなかったん

山田さんは、定時制高校の教員になられていま

う経験もあったので、働きながら定時制高校に来る子 と言うのを聞いたりすると、 ですねん言うて、チンタラ学校なんか来られへんで」 て、吉田板金で働きながら3年間通いました。そうい がなかったので、大阪市立大学の夜間部に学士入学し 員になるのもいいと思ったんです。しかし、教員免許 ている子への親しみはあったので、定時制高校なら教 もともと、 みんなが残業でがんばってるときに、 中卒で働いている子だとか、ヤンチャ その気持ちがよくわかり

定時制高校の教員に

山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語山田 1977年、20歳のときに今宮工業高校の英語は、そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとた。そんなふうにして、定時制高校の現場に立てたとからことは幸福なことだったと思います。

山下 教員になって最初のころは、どんな感じだった

いますね。(笑)。それでも、ものすごいエネルギーはあったと思のあたりに集まって、わっさわっさやっているわけやで、教室に入れるだけでたいへんでした。いつも校門山田 最初のころは、ほんとうにヤンチャな子ばかり

につきおうてきたけど、もうええわ」という感じの子 と思ったことがあります。しかし、その種の自律的な 先生はこれ以上、何もせんでくれ」と言うんです。 ようもない。だから俺らが手を引くことにしたんや。 えるような話やない。どっちかが手を引かんとどうし その親分格に会って聞いたら、「これは先生の手に負 教師も「せめて高校は」と言うから仕方なく来たとい がけっこういた。学校から離れたいと思っても、親も て依存を深めていくような感じになっていきましたね。 エネルギーはだんだんなくなっていって、教師に対し れで、僕も、彼らが決めたことを尊重するほうがいい 休みが明けたら、関西本線側の子がひとりも来ない。 グループ間の対立抗争が起こったんです。それで、夏 いる子と南海本線沿線から来ている子とのあいだで、 定時制高校に来る子どものなかには、「9年も勉強 最初に担任したクラスでは、関西本線沿線から来て

が教育熱心であるほど通じませんでしたね。

で働くということを積極的な選択肢として認めないとは、どうしたって半人前扱いなんですね。中学校を出は、どうしたって半人前扱いなんですね。中学校を出重しないのか、と思っていました。生徒であるあいだ重しないのか、と思っていました。生徒であるあいだ

子、しんどい子、底辺の子と見てしまう。ておかんと」という考えが抜けないんです。低学力のておかんと」という見方をしている。そこに同情して、なんとか力になろうとはするけれども、かわいそうななんとか力になろうとは「学校にいるあいだに勉強し

がぜんぜんない。これはあかんと思いました。つの中学校で1~2人でした。中学校の先生たちのなつの中学校で1~2人でした。中学校の先生たちのなっの中学校で1~2人でした。中学校の先生たちのなった。

ぜ、こんなに痛めつけるのか

山下 佐々木賢さんは、定時制高校は75年に劇的に変

そのあたりの実感はどうでしょう。 参照)。山田さんが教員になられたのは77年ですが、

山田 労働現場と同じで、ギリギリ、変わる前後の学山田 労働現場と同じで、ギリギリ

ていたんでしょう。
山下 実際、そういう子たちに、どういうふうに教え

になっている生徒に、小学4年の問題をやらせることトをつくってやっていました。ただ、すでに15~16歳ほんとうにていねいに、ひとりひとりに合ったプリン山田 数学科なんかは、基礎学力保障ということで、

に問題はないのかという気持ちが、僕のなかにはありました。この子らにいま必要なのはそういうことかと。ました。この子らにいま必要なのはそういうことかと。思うけれども、僕の担当の英語なんて、とくに愛想を思うけれども、僕の担当の英語なんて、とくに愛想を思うけれども、僕の担当の英語なんで、とくに愛想をつかされてましたからね。実際、そんなにうまくいかないんです。

論していたように思います。
されと、教師たちのわかり方に生徒を近づけるのがとったち自身で納得するようにわかることが大事で、今分たち自身で納得するようにわかることが大事で、今分にとなのかどうか、ということがありますね。自

栗田生徒とですか。

山田 教師どうしで、ですね。なかなか生徒とは難し いったです。できないということをたたき込まれたも がったです。できないということをたたき込まれたも

山下 定時制高校に来る子どもたちからエネルギーが

がいを感じたことはあったんでしょうか。
ら人相手に変わったわけですよね。そこで働き方のちら人相手に変わったわけですよね。そこで働き方のちまれた関連するかと思いますが、山田さん自身も、板

山田 ときどき町工場がなつかしくなりましたね。僕は、思い通りにならない工作対象を持つということがものすごい大事なことだと思っているんです。たとえば、鉄板をこう加工したら、その次の加工がやりにくいけれども、先にそれをやらないと寸法がとれないとか、そういうなかで仕事の工夫をする。それは、精神衛生にものすごくいい。うまくできても、自分のやった跡はきちっと残って、うまくできたも、自分のやった跡はきちっと残って、うまくできたも、自分のやった跡はきちっと残って、うまくできたも、自分のやった跡はきちっと残って、うまくできたも、自分のやった跡はきちっと残って、うまくできたも、自分のやった跡はきちっと残って、かりにくなりましたね。僕側の対象を持つことで、ものすごく救われたという思働の対象を持つことで、ものすごく救われたという思いが強いんですね。

山下 しかし、高校は町工場とは別の世界ですね

山田 そうですね。だから、学校でも、英語を教えて

ことですよね。
同時代に並行して起きていたことで、つながっているがなくなったり、中卒で働ける場がなくなったことは、がなくなったり、中卒で働ける場がなくなったことは、

は思ってないんです。それは無理だ。というふうに、全員がうまく適応していけるとは、僕山田 その通りです。製造業がだめなら第3次産業で

栗田 いまだと、中学卒業後に工場で技術を身につけて働くことは難しく、いわゆる「低学歴」とされる人という話が、逆に、不気味に響いてきてしまうんです。という話が、逆に、不気味に響いてきてしまうんです。とかものすごく求められてますからね。

山田 そうですね。

貴戸 言葉だけではなく、感情や関係も含めてですね。

ギリスにも行きましたしね。
でいるほうが、よっぽど楽しくて、そんなことばかりているほうが、よっぽど楽しくて、そんなことばかりいるよりも、生徒をつれて、いろんな職場を見てまわっいるよりも、生徒をつれて、いろんな職場を見てまわっ

イギリスの労働組合運動

山下 イギリスへは何をしに行ったんですか?

山田 79年に、熊沢誠さん(経済学者/労使関係論)山田 79年に、熊沢誠さん(経済学者/労使関係論)がイギリスに半年間留学していた際、私に「夏休みをがイギリスに半年間留学していた際、私に「夏休みをおいっぱい使って、聞き取り調査の手伝いに来い」と言ってきたんですね。同時期に、中岡哲郎さんも、ケンブリッジ大学のニーダム研究所に留学していました。それで、ほぼ2カ月近く、学校の仕事をやりくりしてそれで、ほぼ2カ月近く、学校の仕事をやりくりしてきれでいったんです。当時の職場は、文字通り教員が高主管理していて、校長も「何かあったら私が責任をとるから、あなたがいいと思うことをやってくれたらとるから、あなたがいいと思うことをやってくれたらとるから、あなたがいいと思うことをやってくれたらとるから、あなたがいいと思うことをやってくれたらとるから、あなたがいいと思うことをやってくれたらとない。

熊沢さんは、イギリスで自分で労働組合にツテをつ

ごとに組合があって、経営側は、それぞれの職域の労なかに、電気工組合、機械工組合、板金工組合と職域なかに、電気工組合、機械工組合、です。そうかとつ、TASSという技術職の組合があって、「こなく技術職組合の管轄だ」と言っていたんです。そうなく技術職組合の管轄だ」と言っていたんです。そうなって、電気工組合、機械工組合、機械工組合の管轄ではなかに、電気工組合、機械工組合、板金工組合と職域なかに、電気工組合、機械工組合、板金工組合と職域なかに、電気工組合、機械工組合、板金工組合と職域なかに、電気工組合、機械工組合、板金工組合と職域の労

りには動かせないようになっていたんです。整がつかないと機械ひとつとっても会社側の思うとお組と調整しないといけない。異なる職種の組合間で調

も、まだまだ現場の組合の威力は健在でしたが……。そういうイギリスの状況を打開するために、サッチャーは「組合があるかぎり、イギリスは生た。サッチャーは「組合があるかぎり、イギリスは生た。サッチャーは「組合があるかぎり、イギリスは生た。サッチャーは「組合があるかぎり、イギリスは生た。サッチャーは「組合があるかぎり、イギリスに行ったときには、それでしたかかったんです。僕らがイギリスの状況を打開するために、サッ

も変わってきているわけですよね。と拮抗していたわけですね。しかし、イギリスの状況栗田 労働者も企業に隷従しているのではなく、企業

どありません。 の名称のまま活動している労組は、いまではほとんての名称のまま活動している労組は、いまではほとんいの名称のまま活動している労組は、いまではほとんいの名称のました。当時あった主要な職種別・産業

かったです。日本は大勢が企業別の労働組合ですから、しかし、当時のイギリスの労働運動に学ぶことは多

労働者も会社の採算や利潤のことを考える。会社あっ労働者も会社の採算や利潤のことを考える。会社あっ労働者も会社の採算や利潤のことを考える。会社あっ労働者も会社の採算や利潤のことを考える。会社あっ労働者をとっては、企業の壁を越えて存在する同一の職種・職域こそが自分たちの職場なんです。だから、むいのもそのせいです。もっといえば、イギリスの会社は、日本のように、全従業員に支払う賃金の総額を自由にコントロールすることができないのです。職種自由にコントロールすることができないのです。職種自由にコントロールすることができないのです。職種コントロールすることができないのです。職種でとの交渉で決まる賃率を積み上げる形で会社の労働コストが決まるのです

ただ、いまにして思うのは、そういう労働組合の交 ただ、いまにして思うのは、そういう労働組合の交 は何だったのか。日本でも、かつての国労(国鉄労 さは何だったのか。日本でも、かつての国労(国鉄労 さは何だったのか。日本でも、かつての国労(国鉄労 ちゃ強かったし、教職員組合もけっこう強い時期があ ちゃ強かったし、教職員組合もけっこう強い時期があ りました。けれども、どこかに傲慢さもあったんだと 思います。末端の管理職を小バカにしていたところ がある。教職員組合でも、結局、学校としての責任は がある。教職員組合でも、結局、学校としての責任は

もろいですね。かなり急速につぶれてしまった。かし、そういう関係は、いっぺん相手側が開き直ると、えらの仕事やろ」とうそぶいていたところがある。し校長や教頭が担っていて、それに対して「それがおま

栗田 労働組合に関してですと、組合からはじかれた 女性ばかりに私は出会ってきたんですよね。そして、 女性ばかりに私は出会ってきたんですよね。そして、 するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き するメンタリティや価値観と、いまのそれとでは大き

山田 70年代にはさかんに「労働」という言葉が使われていましたが、それはマルクスの労働価値説や労働れていましたが、それはマルクスの労働価値説や労働の退潮とともに、「仕事」という言葉で語られるようのというでしょうね。

私が翻訳に関わった『ハマータウンの野郎ども』も***

庫になっている。 訳書は1985年、筑摩書房から刊行された。現在は、ちくま学芸文訳書は1985年、筑摩書房から刊行された。現在は、ちくま学芸文

言って、 事に就くことになっている。しかし labour はしんど 考える野郎どもは、「俺らは頭脳労働なんてせえへん 目標を先に置いた考え方で、そういう考えでは、一生 ル・ウィルスの主張だったわけです。勉強して、それ が野郎どもの主体的な選択だというのが、著者のポー び」というのは逆説でしかない。ところが、それこそ ね。学校では、よい成績を修めた者から順番にいい仕 れども、その結果、 で。下積みの労働でええねん、放っておいてくれ」と に見合ういい仕事に就くというようなやり方は、常に い下積み仕事のことですから、「下積みの仕事への学 の学び」という意味です。そこには逆説があるんです 原題は Learning to Labour で、直訳すれば「労働へ 先送りの人生になってしまう。むしろ、いまの充 いまの楽しみこそが優先されなければいけないと 学校から自分たちの独立性を保とうとするけ 下積み仕事に定着してしまうとい

ノンエリート」をめぐって

山下 熊沢誠さんとの出会いは、どういう経緯だった

んでしょう。

です。中間哲郎さんのことは学生時代から知っていた です。中間哲郎さんのことは学生時代から知っていた んですが、中間さんと熊沢さんが1970年に研究会 を始められたんです。社会主義革命に向けての労働組 合の役割という旧来の図式ではなくて、現に起きている労働のあり方の変化を働いている人はどう受けとめる労働のあり方の変化を働いている人はどう受けとめる労働のあり方の変化を働いている人はどう受けとめる労働のあり方の変化を働いている人はどう受けとめる労働のあり方の変化を働いている人はどう受けとめる労働のあり方の変化を働いている人はどうでの人間の復権をテーマにしていました。

実際、石油精製のコンビナートだとか、いろんな現場に行って話をききました。しかし、左翼的な活動家場に行って話をききました。しかし、左翼的な活動家で、仕事内容について具体的に聴いていったんです。全共闘運動のとき、左翼学生が注目していた国は、フランス、ドイツ、イタリアだったんです。イギリスの労働組合運動なんて、誰も見向きもしていませんでした。そうしたなか、熊沢さんはイギリスの労働組合した。そうしたなか、熊沢さんはイギリスの労働組合運動なんで、誰も見向きもしていませんでした。そうしたなか、熊沢さんはイギリスの労働組合した。そうしたなか、熊沢さんはイギリスの労働組合した。労働者のの運動を非常にていねいに追っていました。労働者のの運動を非常にていねいに追っていました。労働者のの運動を非常にていねいに追っていました。労働者のの運動を非常にていねいに追っていました。労働者のの運動を非常にていねいに追っていました。労働者のの運動を非常にていねいに追っていました。労働者の

いうのが、熊沢さんが言っていたことでした。 形成し、どれだけ自分たちで職場をコントロールして 形成し、どれだけ自分たちで職場をコントロールして のか。労働者が日々働いている現実から離れたと はならないと のが、熊沢さんが言っていたことでした。

りますよね。生きていくすべを具体的に考えようということでもあ会に駆り立てられるのではなく、ノンエリートとして会に駆り立てられるのではなく、ノンエリートとして

山田 僕は熊沢さんとは、そのへんでは少し意見がち山田 僕は熊沢さんとは、そのへんでは少し意見がちんです。熊沢さんには『ノンエリートの自立』(有がうんです。熊沢さんには『ノンエリートの自立』(有がうんです。熊沢さんとは、そのへんでは少し意見がちいかが一つで届くのかと思ったんですね。僕は川では少し意見がち山田 僕は熊沢さんとは、そのへんでは少し意見がち

いますか。そして、熊沢さんは、ノンエリートにとっいる。しかし、自分のことをノンエリートと言う人が、たしかに、学校とか企業でエリート扱いされる人は

えばそう考えます。てこそ職業教育が必要だと言っていて、僕も、どちらかと言べての人に必要だと言っていて、僕も、どちらかと言べての人に必要だと言っています。本田由紀さてこそ職業教育が必要だと言っています。本田由紀さ

ますが、具体的な各論は書けていません。 しかし、職業教育というのは各論がないと意味がない。総論だけでは勤労教育で終わる。しかし、いまは誰にも的確な各論を労教育で終わる。しかし、いまは誰にも的確な各論を労的意義』(ちくま新書2009)という好著がありますが、具体的な各論は書けていません。

に代わる展望がはっきりしない。
に代わる展望がはっきりしない。

練校や町工場を体験することができたのは、たいへん私自身について言えば、一度大学を離れて、職業訓

とさえあります。 人り直して、工業高校の教員にもなれた。もっといろんな職業を経験できればなおよかったのに、と思うこんな職業を経験できればなおよかったのに、と思うことさえあります。で、夜間の大学に

ヨーロッパ諸国では、青年がひとつの職業に定着するまで、かなり長い年月をかけています。大学も出たり入ったりしている。そういう意味では、18歳で高校を卒業して、あるいは22歳で大学を卒業してそのままないと思いませんか。そういう枠組みをそのままにしないと思いませんか。そういう枠組みをそのままに、職業教育なんてあり得ません。

この社会を成り立たせるために、どんな仕事があって、それをどんな人が担っているか、そこにある待遇で、それをどんな人が担っているか、そこにある待遇で、それをどんな人が担っているか、そこにある待遇で大事です。ノンエリートだけではなく、すべての人に必要なのは、いま言った意味での職業教育です。今校にいるあいだに自分が将来携わる職業を決めす。学校にいるあいだに自分が将来携わる職業を決めさせるための職業教育ではだめなんです。

選択するという方向に考えすぎです。内田樹さん(思そもそも、多くの人が、自分で自分に合った職業を

想家)は「キャリアのドアのこちら側にはドアノブが 想家)は「キャリアのドアのこうから開くのを待つも分で開けるものではなくて向こうから開くのを待つもの」と言っていますが、そう考えるほうが楽だと思い かかって扉が開くのです。あらかじめ、自分の適性だとか能力を見きわめておいて、それにふさわしいキャとか能力を見きわめておいて、それにふさわしいキャとか能力を見きわめておいて、そんなことが実際にありえますか。声をかけられてやってみたら、こんなおもしろい仕事があったんだ。「適職」というのは多くはそういう出会いなんで、仕事というのは、実際にやってういう出会いなんで、仕事というのは、実際にやってういう出会いなんで、仕事というのは、実際にやって

不登校新聞の論説をめぐって

の内部からも、読者からも、たいへんな反発があって、だいて、不登校新聞創刊当初に編集顧問になっていただきましたね。不登校新聞15号(98年12月1日)に「地たな仕事で生きていくすべを」というタイトルで論説味な仕事で生きていくすべを」というタイトルで論説味な仕事で生きていくすべを」というタイトルで論説は、山田さんから声をかけていた山下 熊沢誠さんには、山田さんから声をかけていた山下 熊沢誠さんには、山田さんから声をかけていた山下 熊沢誠さんには、山田さんから声をかけていた

しておきたいと思います。ことにもつながったと思いますし、あらためて問い直した。それは、山田さんが不登校新聞の理事を辞めるしかし、ちゃんとした議論にすることができませんでしかし、ちゃんとした議論にすることができませんで

言っていました。
言っていました。
して、編集当事者が批判するのはフェアではないとして、編集部の人が読書欄で批判を載せたことに対いたり、編集部の人が読書欄で批判を載せたことに対して、編集当事者が批判するのはフェアではないといる。

西能力や社交性や文化などを学校で獲得する機会は重不足でもあったと思いますし、編集部の人間が読書欄で反論したというのはフェアではなかったと思います。 がたことについて、もう少しふり返っておきたいと思います。 熊沢さんは、一部の才能のある子が専門職に がます。 熊沢さんは、一部の才能のある子が専門職に がます。 熊沢さんは、一部の才能のある子が専門職に がます。 がます。 熊沢さんは、一部の才能のある子が専門職に がます。 がます。 ・だ、その問題にとどめず、 熊沢さんの言わんとして、 その世をていくのだと指摘されていました。 そして、そ の地味な仕事に屈することなく生きていくうえで、言 の地味な仕事に屈することなく生きていくうえで、言

要で、不登校に問題があるとすれば、その機会が奪われていることだ、というのが熊沢さんの主張でした。この意見が反発を招いたのは、ある種、必然だっただろうと思います。しかし、下村博文文科大臣(2014年当時)の「不登校のなかには未来のエジソンやアインシュタインがいる」という発言などに象徴されるように、不登校を肯定する論調のなかにも、能力主義のあやうさがありますね。

本の主に、 ・大事ですが、一定期間働いて、その対価として賃金も大事ですが、一定期間働いて、その対価として賃金を得るということ自体が重要なんですね。定時制高校を得るということ自体が重要なんですね。定時制高校の1年生が4月に仕事を始めて、月末に最初の給料袋の1年生が4月に仕事を始めて、月末に最初の給料袋のすねをかじっていたのが、自分で働いて給料をもらって、教室で給与明細のスリップを見せ合う。それらって、教室で給与明細のスリップを見せ合う。それを見て、ほかの生徒も「先生、俺も働けるかな」と言ってきたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、てきたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、できたりする。もちろん、労働疎外とか、搾取とか、 動はどうだとか、そういうところまでひっくるめて人だけではなく、学校行事への参加だとか、日ごろの行

をまるごと評価対象にするというのはよくないですね。

に何を評価しようとしているのか。そこには、

人が人

になってますね。いっぱいデータを集めて、何のため

いま、学校では絶対評価への移行で、ムチャクチャ

ます。本来、すべての評価というのは相対評価なんで

しかし、その相対評価を全教科に及ばせて、それ

もが自分の足で立ち始める、大事なステップですよね。給料を得るというのは、親に依存せざるを得ない子ど

山下 ただ、その疎外の問題は、いまは深刻ですよね。 労働の現場は相当に劣化していて、基幹労働を非正規 定用の人でまわしている。そこでやっていけなくなっ に人が、職場がおかしいと思うのではなくて、自分が おかしいと思って、メンタルを失調したりしているわけです。

貴戸 熊沢さんは「可視的な仲間」という言葉を使っておられますが、それは仕事という毎日行く場所で、ともに仕事をする仲間との連帯が大事だということでともに仕事をする仲間との連帯が大事だということでそういう職場のなかで、どうやって可視的な仲間をつくることができるのか。大学でも、労働組合は職員とくることができるのか。大学でも、労働組合は職員とくることができるのか。大学でも、労働組合は職員といますし、しかも正規職員しか学内組合には入れません。人びとが仲間と思える基盤を持ち得ない状況があります。それはとても胸の痛む状況があります。それはとても胸の痛む状況があります。それはとても胸の痛む状況があります。

山田 たしかに、その通りですね。非正規雇用も問題山田 たしかに、その通りですね。非正規雇用であっても、一連の大企業の不祥事ですが、正規雇用であっても、一連の大企業の不祥事ですが、正規雇用であっても、一連の大企業の不祥事の高い大学に入って、少しでも名の知れた企業に入ろの高い大学に入って、少しでも名の知れた企業に入ろの高い大学に入って、少しでも名の知れた企業に入ろうとしている。そういうものとはちがう基準で、自分の将来の職業を考えていくことが必要です。学校教育にも責任がありますが、生徒や学生の側でも、そこに気づかないと、結局は自分を追いつめることになりま

評価することへの慎みがない

えですか。いますが、学校のあり方については、どのようにお考いますが、学校のあり方については、どのようにおってきてトとしての学校の役割が重視されるようになってきて田中 話が少し変わりますが、現在、セーフティーネッ

山田 教育の場としてではなくて、地域の子どもが学

だけ脱色できるかと考えてみることが必要です。思っています。学校というものから、「教育」をどれまっのがあるということは、たいへん大事なことだと齢に達したら、誰でもそこに行ける場として学校とい

いて、それに適した人は誰かという相対評価はありえいて、それに適した人は誰かという相対評価はありえたいうところは、できるかぎり弱めないといけない。というところは、できるかぎり弱めないといけない。というところは、できるかぎり弱めないといけない。というところは、できるかぎり弱めないといけない。というところは、できるかぎり弱めないといけない。というところは、できるかぎり弱めないといけない。というところは、できるかぎり弱めないといけない。

で、一生懸命、勉強したり訓練を受けたりしていますね。生たちは、絶対評価をいかに精緻にするかということを評価することに対する慎みがない。しかし、若い先

山下 先生自身も評価されているわけですしね

学校に行かない子と親の会

山下 親の会を始められた経緯のあたりも、お話しい

山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る山田 先ほど話したように、中学校を出て働きに出る

ださったんです。会に参加していいですか」ときいたら、受けいれてくたりとも学校に行ってなかったんですね。それで、「例ていい」とおっしゃった。恩田さんのお子さんも、ふ

当時、京都の会には、近畿一円から参加者があって、当時、京都の会には、近畿一円から参加者があって、写教に行かない子と親の会(大たいうことになって、「学校に行かない子と親の会(大ということになって、「学校に行かない子と親の会(大大阪からもたくさん来ていました。それで、恩田さん大阪からもたくさん来ていました。それで、恩田さん大阪からもたくさん。

田中 山田さんは「学校に行かない」という言い方は 田中 山田さんは「学校に行かない」という言い方は

れで大事なことだったと思います。 月、集まってくる人を支え続けてこられた。それはそ丈夫、どないでもなりますよ」と言われることで、毎丈夫、どないでもなりますよ」と言われることで、毎ます。しかし、その話しぶりがきっぱりしていて、「大ます。

> るし、無理にでも行かせることがほんとうによいのか と、異議申し立てが起きてきたわけですよね。 がって、学校に行かないのには、それなりの理由があ 圭子さんたちをはじめとして、全国で親の会が立ち上 親もとじこもりがちになるわけです。そこから、奥地 子さんどうしているんですか?」ときかれるから、 はなく母親も孤立していました。一歩、外に出たら「お や」と夫から責められ、あるいは自分で自分を責める たと思います。「おまえの子育てはどないなってたの しんどかったと思うけれども、母親も相当しんどかっ 境に陥っていたんですね。不登校になると、子どもも が学校に行かなくなったということで、ものすごい苦 育児を任せられているにもかかわらず、 の親の会に集まった母親たちというのは、主婦として のは母親たちのエネルギーなんです。90年代に不登校 子どもが学校に行かなくなることで、子どもだけで 僕が京都の会にめぐりあって、一番、 衝撃を受けた 最愛のわが子

お母さんも、よくおられました。それまで、顔の筋肉量で話し合って「今日はひさしぶりに笑った」というも、母親たちが集まって話し始めると、ものすごい熱京都の会に参加していても、大阪で会を始めてから

う話もよく聞きました。かいいことあったの?」と、子どもからきかれたといかいいことあったの?」と、子どもからきかれたといがこわばっていてニコリともしなかったのが、たくさ

あるいは、熱心にいろんな本を読んだり、講演を聴きに行ったりして、いったい自分たちは何を考えて子きに行ったりして、いったい自分たちは何を考えて子きに行ったりして、いったい自分たちは何を考えて子を重動というより、自分たちが元気になるための運動た運動というより、自分たちが元気になるための運動がつたんだと思います。

は思わなかったんですか? 栗田 山田さんは、不登校の子どもに直接関わろうと

はうがいいと思ってました。 出田 子どもと向き合うと教師をしてしまう、という 自戒があったんです。子どもとは学校で教師としてつきあっているわけだから、ちがう場を持って、むしろ という 出田 子どもと向き合うと教師をしてしまう、という

中っていくという経験はあったんでしょうか?
要田 親の会に関わって、ご自身が家族のなかで変

山田 娘は中学生のころから、私の親の会での活動を山田 娘は中学生のころから、私の親の会での活動を体んだりしてました。ヤンチャする子で、親からすを休んだりしてました。ヤンチャする子で、親からすを休んだりしてました。ヤンチャする子で、親からすると心配なところはありましたけどね(笑)。

由来は何なんでしょう? 信も「ココナッツ通信」ですけど、「ココナッツ」の信も「ココナッツ通信」ですけど、「ココナッツ」の、通

しょに参加してました。大阪の会でも月に1回、山歩いた女の子が「ココナッツハウス」という名前をつけいた女の子が「ココナッツハウス」という名前をつけたったんです。その子の父親も「学校なんか行かんでいい」というスタンスの人で、その子は学校には行かがに、星空見学会だとか、山歩きの会に父親といっかずに、星空見学会だとか、山歩きの会でも月に1回、山歩はった人のでも月に1回、山歩はった人のでも月に1回、山歩はった人のでも月に1回、山歩に、

て、おもしろかったですね。ら、ほんまに、植物やら鳥や虫のことをよく知っていきをしていたんですが、この子といっしょに歩いてた

そのあたりは、いま厳しくなっていると思いますが。裕があるから成り立ってきたという面がありますね。業主婦層がいて、時間的にも経済的にもある程度の余業の会も、ある時代状況のなかで、たとえば専

山田 そうですね。不登校の子どもの数は、ぜんぜん山田 そうですね。不登校の子どもの数は、ぜんぜんりようがなくなっている。それで、自分の子どもの状りようがなくなっている。それで、自分の子どもの状りようがなくなっている。それで、自分の子どもの状りようがなくなっている。それで、自分の子どもの状況もわからなくなっているんですね。

ることはあるんですか。 栗田 山田さんが、最近、そういう子どもたちと接す

と思いますね……。と思いますね……。と思います。ほんとうに、どないしているんやろうつながりがなくなってしまって、わからなくなってしましているんやろう山田 とくに定時制高校を退職してからは、そういう

>やしいじゃありませんか

だとか、親の方からの反発などはなかったでしょうか。 でこられたわけですよね。そのあたりで運営の難しさ さを抱えつつ、そのことも明らかにしつつ、関わって さを抱えつつ、そのことも明らかにしつつ、関わって さを抱えつっ、そのことも明らかにしつつ、関わって はでもなくて、どちらかというと、問題意識から関わっ はでもなくて、どちらかというと、問題意識から関わっ

をしようというのか」と言われて、「あんたが辞めるか事になることを私たちに相談したか。理事になって何れた何人かから、「ええかげんにせえよ。あんた、理聞の理事になったことでした。これは、ほんとうに痛聞の理事になったことでした。これは、ほんとうに痛助の理事になったことでした。これは、8年に不登校新山田 会の仲間からの一番の反発は、88年に不登校新山田 会の仲間からの一番の反発は、88年に不登校新

た方もおられました。私らが辞めるかどちらかだ」となって、離れていかれ

だと思います。
に呑みこまれることへの反発のようなものがあったんないんですね。それが、なんらかの方向性をもつ運動ないんですね。それが、なんらかの方向性をもつ運動

山田 僕自身、学校教育というもののおそろしさを感出田 僕自身、学校教育に対する批判の手をゆるめるつもりはありません。けれども、一方では、子どもが自分の判断だけで自分の居場所を選ぶことはできないともの判断だけで自分の居場所を選ぶことはできないともあっているんです。フリースクールがあったとしても、思っているんです。フリースクールがあったとしても、思っているんです。フリースクールがあったとしても、思っているんです。フリースクールがあったとしても、思っているんです。フリースクールがあったとしても、思っているんです。

ずっと考えてきました。として学校があるための条件は何か、そういうことをとして学校があるための条件は何か、そういうことを解決はないけれども、子どもが少しでもいやすい場所校というものをどうしていくのがよいのか、理想的な

親の会に来られる方のなかには、自分の子が学校に 親の会に来られる方のなかには、自分の子が安心して行けないのか。くやしいじゃありませんか。ですから、私は 行かなくてもいいとは言えません。私の子がちゃんと行かなくてもいいとは言えません。私の子がちゃんと行かなくてもいいとは言えません。私の子がちゃんと 行かなくてもいいとは言えません。私は、それは一理すか」とおっしゃる方もいました。私は、それは一理すか」とおっしゃる方もいます。

山下 その話を聞かれたのは何年ごろですか。

ではなくて、いまの学校のあり方がおかしい、それをではありません。大阪で登校拒否を考える夏の全国合宿を開いたのが95年でしたかね。あのころは、大阪の宿を開いたのが95年でしたかね。あのころは、大阪のおルギーのなかには、不登校を子どもの選択とみるのネルギーのなかには、不登校を子どもの選択とみるのネルギーのなかには、不登校を子どもの選択とみるの

くまれていたんです。何とかするべきと考えている人たちのエネルギーもふ

貴戸 そう言えば、うちの父も、そういうことを言っ

はメインストリームにはならなかったわけですね。 栗田 しかし、そういう主張は、不登校運動のなかで

苦しみに沈む時期も必要

山下 親の会の世話人をされていて、「自分の子が不 登校でもないあなたに、この苦しみがわかるのか」と

とうにわかっているかと問われれば、わかりません。かりません」と言うほかありません。いまでも、ほんかりません。のまでも、ほんは田田のりましたね。そこは「僕は親ではないからわ

登校が家庭のなかで受容されたという経験があります。貴戸 私は、母親が親の会に行ったことで、自分の不

是、母に話したことがあるぐらいです。 親もしんどかったと思いますけど、子どもからすると、親もしんどかったと思いますけど、子どもからするとは 自分のせいで母親が不幸になっている姿を見ることは を責めたりしてしまう。私の母は、そうならないた がで親の会に行っていたんだなと、最近になって気づ がに親の会に行っていたんだなと、最近になって気づ と、母に話したことがあるぐらいです。

ただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ、こういう言い方をするのは適切かわからないただ。

いうことはありますよね。子どもは子どもで、いろん 実際に、その子どもからしたらどうだったんだろうと 登校の子のほうが正常だと主張される方もいましたが、 山田 親のなかには、明るい不登校だとか、むしろ不

なことを考えていますからね。

だとも思います。として引き受けるというか、苦しみに沈む時期は必要として引き受けるというか、苦しみに沈む時期は必要えるのも、大事なことだと思います。苦しみは苦しみそれと、苦しむことは悪いことばかりではないと捉

山下 しかし、恩田さんのようなキッパリとした意見、 あるいは奥地圭子さんの『登校拒否は病気じゃない』 のも、学校のことを外から見ることができたという面 んも、学校のことを外から見ることができたという面

山田 それは、その通りです。

山下 とはいえ、不登校を選んだというように考え力を持ってしまうと、そうではない語りが抑圧されてしてしまってきた面もあったわけですよね。それと、貴戸さんがおっしゃったように、親が子どものことを代弁さんがおっしゃったように、親が子どものことを代弁も、「選択」をめぐる問題は、くり返しテーマにしても、「選択」をめぐる問題は、くり返しテーマにしても、「選択」をめぐる問題は、くり返しテーマにしても、「選択」をめぐる問題は、人り返しているような語りが出ている。

ておられますでしょう。

教育への権利は2段構え

親の選択権を認めるBはセットになっているんですね。 基礎的の段階においては、無償でなければならない。 てはならない」となっています(B)。 育機関を設置し及び管理する自由を妨げるものと解し の条または前条のいかなる規定も、個人及び団体が教 ものとする」とある一方で(A)、第29条2項に「こ 教育を義務的なものとし、すべての者に対して無償の わけです (以下、Bとする)。国家に義務を課すAと、 の種類を選択する優先的権利を有する」となっている Aとする)。そして、3項で「親は、子に与える教育 初等教育は、義務的でなければならない」とある(以下、 ける権利を有する。教育は、 なってますね。第26条1項は「すべて人は、教育を受 山田 世界人権宣言では、教育への権利は2段構えに 子どもの権利条約においても、第28条1項に「初等 少なくとも初等の、及び

もれなく教育を保障する義務を負うということですね。 義務的というのは、英語で compulsory で、国家が

評価に対する慎みがある。 7年生までは教育評価をしないと書いてあることです。 これはすごいなと思いました。もうひとつ驚いたのは、 はないと明記されています。最初にこれを読んだとき、 ないと明記されています。最初にこれを読んだとき、 たとえば、デンマークの教育省のホームページには、

ただ、いまの私は、compulsory なのは教育であるというのは危険だと思っています。学校以外でも、それが達成されるのであれば学ぶ場は学校でなくてもいい、家でもいいというのは、むしろ怖いのではないかとさえ思います。学校に通うほうが、むしろ来るだかとさえ思います。学校に通うほうが、むしろ来るだけは来て、あとは寝ているということもありうる。ところが、通学ではなく教育それ自体が compulsory にころが、通学ではなく教育それ自体が compulsory にったら、おちおち寝ていることでもできない。

ならないと思っています。わが子にふさわしい教育段目がない。この点で日本の法制はあらためなければせているということも事実ですね。日本国憲法では、2 「教育を受ける権利」という1段目だけがあって、2 では、10年制のフォルケスコー

Bだけを言うのは危険だと思います。らない。ただし、AとBがセットになることが大事で、を親が選ぶ権利は、きっちり保障されていなければな

Aがよりよく実現する方向を重んじるのか、それよりもBの親の選択の自由を選ぶのか、そこは、宗教事りもBの親の選択の自由を選ぶのか、そこは、宗教事は決められないことだと思います。かなりあやふやなは決められないことだと思います。かなりあやふやなは決められないことだと思います。

山下 たしかに、AとBのどちらに重心を置くかで、意見が変わってきますね。私は、何より議論が足りてでもありになってしまうと、教育評価の視線が学校のでもありになってしまうと、教育評価の視線が学校のキ2 2015年5月、超党派の議員連盟により提案され、フリースクールや夜間中学校など多様な場が教育機会として認められると期待された一方、かえって不登校の子が追いつめられると反対や慎重論のされた一方、かえって不登校の子が追いつめられると反対や慎重論のされた一方、かえって不登校の子が追いつめられると反対や慎重論のません。

が教育化が強まってしまうという逆説がありますね。してしまうことを懸念してきました。自由化するほう外に広がるばかりで、子どもからすると逃げ場をなく

学籍選択の自由?

ついて署名運動をしようとしたことがありましたね。んたちは、90年代半ばごろにも学籍を離脱する自由に山田 具体的には、学籍の問題がありますね。奥地さ

立ち消えになったことがありました。たんですが、内部からもいろんな意見が出て、結局は員会」をつくって、署名運動をしようとしたことがあっ山下 学校の在籍について「選択の権利を拡大する委

択権だけを言うのはまずいです。それでは、選択肢が 状の自由があると読めなくもない案になっていました。 状の自由があると読めなくもない案になっていました。 状の自由があると読めなくもない案になっていました。 がといけない。 がないまま、あいまいに学籍選 がないといけない。 がないまま、あいまいに学籍選

なにしんどいことはないと思います。も自身が単独で選ぶことなんてできないですね。こんも自身が単独で選ぶことなんてできないですね。こんできても親は判断にとまどうでしょうし、その責任は

私立の学校を選ぶということもあるわけですが。だんにできるはずがないと私は思うんです。とりあえだは地域の学校に行ってみるというのが、一番自然で親が最初からわが子の学籍を辞退するなんて、かん

地域の学校に、できるだけすべての子が無理せず行 地域の学校に、できるだけすべての子が無理せず行

とは、矛盾していないのでしょうか。 地域の学校に行くことがもっとも自然であるというこ 田中 AとBがセットであることが理想ということと、

きません」という親がいて、その選択に対して国家が山田 矛盾はしていないと思います。「うちの子は行

断じてあってはならないと思います断に対して、法令違反として国が圧力をかけることは介入することはできないということです。その親の判

田中 AとBが両立している状況で、選択する親子が

いと思います。
いと思います。
いと思います。
いと思います。

田中 フリースクール等の立場から教育機会確保法を田中 フリースクール等の立場から教育機会確保法を田中 フリースクール等の立場から教育機会確保法を

れないですし、これまでの経過を見ていて、その傾向山田 Aを軽視しているとしたら、僕はいっしょにや

はあったと思います。

るという目的もあったのではないでしょうか。新しい法律づくりには、そういうデメリットを解消すという心理的な負担を感じることがあると思います。という心理的な負担を感じることがあると思います。

合ったものを保障するためにあるものでしょう。 とで生じるものですか? 日本の義務教育は履修主義ではなくて在籍主義でいいと思っているんです。学籍は子どもを縛るものとしてあるのではなくて、国がそれに見もを縛るものとしてあるのではなくて、国がそれに見もを縛るものとしてあるのではなくて、国がそれに見しているのを保障するためにあるものでしょう。

した。そして、結局は学籍の話は法律の成立過程で立場合にかぎった話で、そういうものでもありませんでと思いますが、教育機会確保法は、あくまで不登校のと思いますが、教育機会確保法は、あくまで不登校のと思いますよね。すべての子どもが試験で修了を主義になりますよね。すべての子どもが試験で修了を

ですね。
ち消えたわけですが、よく考えないといけないところ

それと、教育機会確保法を望んだのは、フリースクール関係者だけではなくて、クラスジャパンプロジェクル関係者だけではなくて、クラスジャパンプロジェクトのように、教育産業が自由化を求めたという面もトっています。そこにあるのは、Aを軽視して自由化・思っています。そこにあるのは、Aを軽視して自由化・思っています。そこにあるのは、Aを軽視して自由化・思っています。そこにあるのは、カースクールの主張が認められたと思うのは楽観的にすぎると思います。

ジームエデュケーションへの疑問

さんは以前から疑問を呈されてきましたね。 思います。ホームエデュケーションについては、山田思います。 親の選択権について、もう少しうかがいたいと

会長は原田隆史さん(元中学校教員)で、 立ち上げたプロジェクト。批判を受けて「学校復帰」の文言は消えた。 を支援する」と謳って、 *3 「学校・企業・地域が一丸となって不登校の小中学生の学校復帰 田メソッド」にもとづいて「自立教育」を体得させるとしている。 角川ドワンゴ学園の役員などが中心となって ネットクラスを通じて「原 リカ、

山田 僕は最初から、ホームエデュケーションにはぜ 山田 僕は最初から、ホームエデュケーション をしている人たちのあいだで、なんらかの連携が恒常 的にとれていれば問題は少ないかもしれませんが、僕 は親が教育を担うということには反対なんです。親の 考えを相対化できる場は、子どもの成育にとって絶対 で必要だと考えています。

参照)。 ことだとおっしゃってましたね(本プロジェクト#35 は、高岡健さんも、親の影響力が強いことはまずい

貴戸 私は2014年からオーストラリアに2年間留学していたんですけど、ホームエデュケーションというのは、こういうところで立ち上がってくるものなんだと腑に落ちたんですね。国土が広くて、文化的多様だと腑に落ちたんですね。国土が広くて、文化的多様だかあって、一族で移民してきていたりして、家族のなかにも多様性がある。そういう人たちのなかで、近なかにも多様性がある。そういう人たちのなかで、近なかにも多様性がある。そういう人たちのなかで、近なかにも多様性がある。とういう人たちのなかで、近なかにも多様性がある。

(年証言プロジェク

思います。

いた。ているけれども、学籍は公立学校にあると言っていまているけれども、学籍は公立学校にあると言っていま州では、ホームエデュケーションは制度的に認められ育省に行って話を聞いたんですが、南オーストラリア州の教山下さんともいっしょに、南オーストラリア州の教

ホームにデュケーションということで思い起これのすべての子どもに対して責務を負うわけです。学籍は大事だと思います。そのことによって、国家が山田 学校に行っている、行っていないにかかわらず、

を学んだほうがいいと。このお父さんは、子どもに土 は、ロール・ダールというイギリスの作家の『ダニーは、ロール・ダールというイギリスの作家の『ダニーは世界のチャンピオン』という小説です。父子家庭の 動車修理もしていて、9歳までは子どもを学校にやら ないと言うんです。なぜかというと、自分のそばに置 ないと言うんです。なぜかというと、自分のそばに置 ないと言うんです。なぜかというと、自分のそばに置 ないと言うんです。なぜかというと、自分のそばに置 ないと言うんです。なせかというと、自分のそばに置 ないと言うんです。なせかというと、自分のそばに置 ないと言うんです。なせから学校でいろんなこと でたってもいいというんです。そういう自分のベー ないる経験があって、それから学校でいろんなこと ないだほうがいいと。このお父さんは、子どもに土

> れることをおそれたわけです。 算数・理科・社会を勉強させられて、テストで評価さ台になる経験がぜんぜんないままに、脈絡もなく国語・

ものすごく大事なことだと思います。とは、それを将来、仕事にするかどうかは別として、とは、それを将来、仕事にするかどうかは別として、とは、それを将来、仕事にするかどうかは別として、そどもが、自分なりの世界観、物事の考え方の基本

感じがする。

「これは僕の偏見かもしれないけれども、対人サービス的な仕事を通じて、自分なりの世界観や物事の考えス的な仕事を通じて、自分なりの世界観や物事の考えるけれども、プログラム上の記号操作では頼りない たいかと思います。グローバル化だとかITだとか これは僕の偏見かもしれないけれども、対人サービ

社会情勢としては、自営業者はどんどん減っていっ をののなかに生活の安定があるわけがない。 をののなかに生活の安定があるわけですが、そのこと をはおかしい。ショッピングモールなんて表面はキーのでもスクラップできるようにつくられてます。そんなでもスクラップできるようにつくられてます。そんなでもスクラップできるようにつくられてます。そんなでもスクラップできるようにつくられてます。そんなでもスクラップできるようにつくられてます。

実際は、私たちの日々の具体的な暮らしのなかには

ちで自給自足の農業を始めている人なんかもいますね。いろんな仕事があるはずなんです。なかには、自分た

山下 そういう何らかの生活の足場を持たないことに 山下 そういう何らかの生活の足場を持たないことに は、ほんとうの意味で学校を相対化することは難しい います。逆に言えば、具体的な足場があれば、学校は います。逆に言えば、具体的な足場があれば、学校は います。逆に言えば、具体的な足場があれば、学校は います。逆に言えば、具体的な足場があれば、学校は

山田 学校を利用するという言い方にも、どこか個人 主義的なニュアンスがありますね。僕が言いたいのは、 そういうことではないのですよ。地域の人とともにい ることは、それ自体が目的なんです。それは、選べな いものでもある。多くの人が、あたかも何でも選べる ように思っているけれども、誰しも自分の両親だって、 ように思っているけれども、誰しも自分の両親だって、 自分がやっていける道を右往左往しながら見つけてい くほかない。選べないなかでも、そばにいる人と折り

いと思いますね。

「昔はよかった」ではなく

栗田 選べないということで言えば、時代状況も選べないですね。山田さんのように物の生産を通じて精神ないですね。山田さんのように物の生産を通じて精神ないですね。山田さんが、いまの時代では相当難しくなったないと、自分たちには何もないということにしかならない。もし、山田さんが、いまの時代の子どもたちらない。もし、山田さんが、いまの時代の子どもたちらない。もし、山田さんが、いまの時代の子どもたちらない。もし、山田さんが、いまの時代の子どもたちらない。もし、山田さんが、いまの時代の子どもたちらない。もし、山田さんが、いまの時代の子どもたちらない。

経済が続くという前提に立っているわけですね。そも資源の供給があり、地域間の格差が続き、グローバルかなと思っているんです。それは、いまと同じような達したら、これだけの仕事がなくなるとか、ほんとう出田 その時代状況の認識についてですが、AIが発出田

そも、そういう見方自体に疑問がある。

思います。 ましょうとか、この方面に使うのはやめましょうとか、 を立てて、それに備えてという考え方は本末転倒だと そういう人間の知恵とのかねあいで決まってくるもの 労働の現場にどう持ち込むかは、さまざまな選択のな が決まってきたわけではない。新しいテクノロジーを テクノロジーの技術的必然だけで、仕事のありよう を失ってはいけないと思っています。いままでだって、 です。そう考えないと、必然的にこうなると将来予測 かで決まってくることです。もうちょっとゆっくりし 僕は、仕事の機会をみんなでつくり合うという発想

実践的に考えて、そこから普遍的な問いを立てていく ますよね。デューイを含め、プラグマティズムの思想 岸 の子どもたちが学校を相対化できる具体的な足場を、 わけですね。私の問題意識として常にあるのは、いま は、抽象的な観念論ではなく、現場から具体的、現実的、 Ш 田さんの思想には、デューイの影響があ

リカの哲学者。『学校と社会』などの著書がある。 ジョン・デューイ (John Dewey / 1859-1952): アメ

> 思います。 しまって、 だけでは、 実際にどうつくることができるか、です。理念や言葉 昔話を聞かされているということになって その言葉は子どもや若者に響かないように

山田 手仕事を重視した教育思想家としてもデュ は重要です。

私たちひとりひとりがこの社会をつくっている。もち 会がどうのと言うけれども、その社会というのはあな 思っています。いつだか、若い人たちと話していて、「社 ちょっと変わりうると思いますし、そう思いたいです がらえさせることになる。僕は、 まうわけです。あなた自身が、そういう社会を生きな けれども、 ろん思うがままにはならなくて、社会的制約は受ける たのことではないですか」と話したことがあります。 いうことになってしまいますね。それではいけないと て話をするとき、うっかりすると「昔はよかった」と で、いま指摘されたように、高校生や若い人に向け あきらめてしまえば社会の惰性を強めてし いまの社会はもう

とうまくいくこともある。そういうなかで、見えてく えたいです。 るものもあったりしますよね。そこにある共同性を考 同じ人に言っても、 もいれば、受けとめてくれない人もいる。同じことを けで、同じことを言っていても、受けとめてくれる人 かと思います。人間だって、思い通りにはならないわ えると、さしあたっては人間関係しかないんじゃない い対象を、いまの私たちが具体的にどう持てるかと考 山田さんがおっしゃるような思い通りにならな 別の日に別のシチュエーションだ

思っています。そういう意味では、ケア労働であると 見通しのある、パッケージ化された教育みたいなもの か「場」って、行ってみないと誰がいるかわからない は選ぶことはできるかもしれない。だけど、共同性と を見いだしていくこともできる。 か、人の身体性、生き死にを扱う領域のなかに共同性 のですよね。そういうなかで格闘するしかない。そし し、出会った人と、そこでいっしょにつくっていくも 教育を選ぶというとき、コンテンツが確定していて 真摯に関われば、何か見えてくるのではないかと そこで格闘すれば、思い通りにはならないけれど 私は、そういうこと

を考えています。

ルなど、 生活は、 まく再利用していくことが絶対に必要です。私たちの ではなく、住民がそこで生じる必要を協働で満たして が協働でメンテナンスしていくほかない。特定の職業 のところにきています。それは、そこに住んでいる人 るわけですが、それらのインフラが耐久年数ギリギリ 域ごとに、そこに住んでいる人が、現にあるものをう 一度つくったものをどう上手に活かしていくかは、地 です。いままでの物づくりは大量生産できたけれども、 メンテナンス(修復・保全)が大事だと思っているん 山田 以前から、ずっと言っていることですが、僕は いくほかない。僕は、 電気、水道、ガス、鉄道、道路、橋、トンネ いろんなインフラに支えられて成り立ってい そこに可能性をみています。

#46 山田潤さん 不登校 50 年証言プロジェクト

本プロジェクトは寄付で運営し、すべての記事を無償で公開しています。 ご寄付のほど、よろしくお願いします。

郵便振替口座:00100-6-22077 加入者名:全国不登校新聞社

一口 1000 円/3000 円/5000 円

不登校 50 年証言プロジェクト http://futoko50.sblo.jp

#46 山田潤さん

インタビュー日時:2018年7月27日

聞き手:山下耕平、貴戸理恵、栗田隆子、田中佑弥

場 所:ココナッツハウス (大阪市)

記事編集・写真撮影:山下耕平 記事公開日:2018年9月4日

編集・発行:全国不登校新聞社

© 2018 Zenkoku Futoko Shimbun sha

東京編集局(関東チーム事務局) 〒 114-0021 東京都北区岸町 1-9-19 TEL:03-5963-5526 / FAX:03-5963-5527 E-mail:tokyo@futoko.org

大阪通信局(関西チーム事務局) TEL:050-5883-0462 E-mail:osaka_c@futoko.org ○「、ただし、たぼましょう目話よ、そうと 目のもうご◇本プロジェクトにおける用語の取り扱いについて

「不登校」を意味する用語は、長い年月のあいだに、「学校恐怖症(school phobia)」「登校拒否(school refusal)」「学校嫌い」「不登校」など、さまざまな用語が使われてきました。立場や人によって、その言葉の使い方や、意味するところが異なります。不登校50年証言プロジェクトでは、統一した用語に整理するのではなく、話し手の文脈に即して使うこととします。